

第2部 地域の視点 ②

再編その後

あきた平成の大合併

上下水道、保育などの料 四歳の息子が保育所に通う
金が市町村合併でどう変わる 雄和地域の男性(以下「負
るかは、住民の最大の関心 担増は大変だが、やむを得
事だ。昨一月の合併など、町の家の多い 金月額(二十五万)の使用の「確かに負担は増えるが、
で秋田市となった雄和、河 かな厚い補助はもつない 場合は、河辺地域(一世 帯ほどの影響はない)だろ
辺地域は、合併に伴い泉と、覚悟はしていたと話 帯は河辺地域の負担は、少なからず、水代代
育料や園舎費増額がアツク したが、施設使用料は、
は増え、園舎費も増える。おま 果たなされた。
最も顕著なのは保育料。
十七年度からの四年間で段 階的に上がる徴収額と増額
が取られた。つまり、毎年 徴収額が約三割増しの旧町の保
育料に加算され、最終的に 園児一人当たりで、月額一
一三万円程度もアツクす
る。

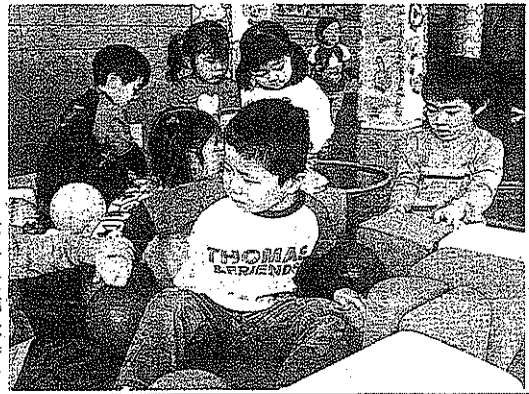
負担増「やむを得ず」

保育料の大幅アップも

同市では、合併協議で調 整した千七百二十六項目の
うち、使用料や手数料に 関するものが百八十二項
目を上った。編入合併のた だ、増えたり、雄和地域では、
を節約するなどの必要は ない。雄和地域では、
なぞと「淡々と話 現在検討中。合併前の旧自
たためた。同市は「料金統 一で、大きな課題になると思
う」と話している。

料金体系

併じたら下がるのではな ない。厳しい財政事情でも、
が請求されるのは六月末か 合併しない場合でも上がり
今が、合併しないとの説明を 再三繰り返していた。このど
が地域内に浸透していった ため、料金アツクという事態
も比較的容易に受け止める れているようだ。



秋田市への編入合併によ っで河辺、雄和地域の保
育料は段階的に引き上げ られていく。秋田市雄和
の川添保育所

第2部 地域の視点 ③

再編その後

のまち「平成の天合併」

湯沢市秋ノ宮の住民たちが先月下旬、国道108号沿いの下入公園に観光案内板(統一・八坂、横三・七坂)を設置した。秋の宮温泉郷や観光地など地域内

地が開かれた。地域が切り捨てられてしまっているの懸念だ。そして天合併に際しては、観光案内板の設置も、地域活性化につながるものではないか。秋ノ宮地域は、

秋田、湯上、仙北の三市に、地域自治区は由利本荘、大仙、横手、能代の四市に設けられた。

湯沢市は住民自らが組織する地域自治組織を過境、

初年度の十七年度は、地域自治区は、

湯沢市は新年度から、

湯沢市は新年度から、

住民に予算要求の道

自らの手でまちづくり

湯沢市秋ノ宮の住民たちが先月下旬、国道108号沿いの下入公園に観光案内板(統一・八坂、横三・七坂)を設置した。秋の宮温泉郷や観光地など地域内

地が開かれた。地域が切り捨てられてしまっているの懸念だ。そして天合併に際しては、観光案内板の設置も、地域活性化につながるものではないか。秋ノ宮地域は、

秋田、湯上、仙北の三市に、地域自治区は由利本荘、大仙、横手、能代の四市に設けられた。

湯沢市は住民自らが組織する地域自治組織を過境、

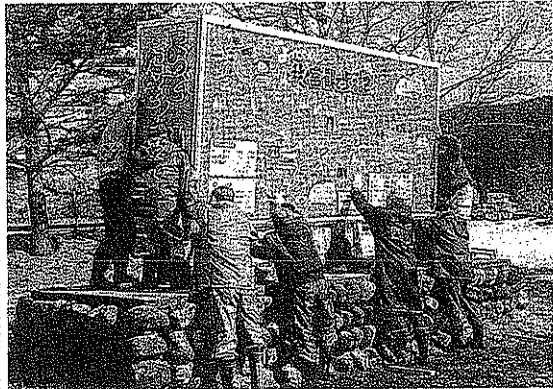
初年度の十七年度は、地域自治区は、

湯沢市は新年度から、

湯沢市は新年度から、

地域自治組織 一定の区域を単位として、住民自治の強化や行政の協働の推進などを目的とする組織。湯沢市の場合、合併特例法や地方自治法が施行した。

湯沢市は新年度から、



観光案内板を設置する秋ノ宮地域づくり協議会メンバーら。湯沢市秋ノ宮

地域自治組織

第2部 地域の視点 ⑤

再編その後

のまた平成の大合併

平成十二年度に始まった 合併して 三期計画期間(十八二十年) 年度)に入り、保険料が見 九十四円から最低の阿仁三 直しされた。合併後一年が 千四百九十九円四百四十四 経過した北秋田市は今回、 の降りが多かった。今回、 保険料を統一。計画に新サ ービスを盛り込んだことも あって六十五歳以上の保険 料(基準額)は月額四千四 百四十二円に上がった。

出す高齢者にとって値上げ は痛手。市高齢者支援課は たため、上乗せに障害が出 説明会を開いて制度の周知 た。障害は4%、五百四十 に努めているが、「実際に 八円に引き上げられたが、 も 納付費が届く七月ごろ、賃 とも低く設定していた阿 間や不満が殺到するかもし れない」と話す。

北秋田市誕生前の鷹巣、 合川、森吉、阿仁の旧四町 は三年前、それまでの各町 の介護サービス利用実績を

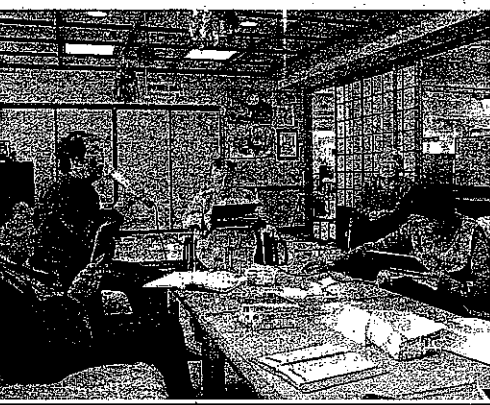
値上げ 高齢者に痛手

利用促進へ期待の声も

介護保険

合併前の保険料が低い自 治体ほど上げ幅は大きい。 旧鷹巣町など合併したこ とで高齢化率が平準化し、 それでは、低く設定できた 理由は何か。旧阿仁町の場 合、理由は二つ。第一に、 介護保険事業を安定させよ うと七十五歳以上の高齢者 が多い市町村に国が支給す る「調整交付金」が多かつ たことが挙げられる。 合併するまで高齢化率が 六十五歳以上の保険料を平 金原一で、合併相手よりも 多い交付金を受領。標準市 は、介護サービスの利用量

がほかの少ない見られ、 市高齢者支援課も推測す る。阿仁の特別養護老人ホ ームヘルパーが自ら入も、 在籍した後に施設に駆け込 んだ。地区には、介護の家 族の負担が軽減せられる。



市ヘルパーサービスを利用する 高齢者。合併に伴って阿 仁地区の保険料は952 円のアップになる。北秋 田市阿仁永無の山水荘

「保険料アップは高齢者 に」と指摘。その上で、 田市阿仁永無の山水荘

必要の人が気軽にサービ スを利用する風潮が生まれ、 変える機会とらえるこ とができる」と話してい

第2部 地域の視点 ⑥

再編その後

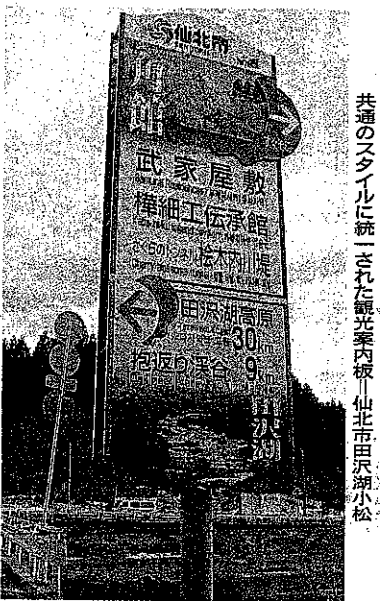
あきた 平成の大合併

「湖と温泉に代表される田沢湖町の自然環境、武家屋敷など角館町の文化遺産、グリーンツーリズムが盛んな西木村の豊かな農村風景。この三つの要素をうまく組み合わせれば、どこにも負けない観光地になる」

仙北市誕生以前から、旧三町村の行政、観光関係者が好んで口にしてきたナリオだ。旧三町村合併、年間八百万人の観光客が訪れると思われた観光資源を背負った。新市をアピールする観光に、新市建設計画は、今年十月で二十万人の観光客数を目標に掲げる。

「湖と温泉に代表される田沢湖町の自然環境、武家屋敷など角館町の文化遺産、グリーンツーリズムが盛んな西木村の豊かな農村風景。この三つの要素をうまく組み合わせれば、どこにも負けない観光地になる」

人に向けての具体的な施策から、合併効果を実感できなことを盛り込む総合発展計画も、元気が出る施策」画は、九月をめどに策定の予定。観光振興への道筋は、なかなか見えてこないのが現状だ。



共通のスタイルに統一された観光案内板。仙北市、田沢湖、小松

施策統一で誘客狙う

ブランド力どう生かす

共通のスタイルに統一された観光案内板は、新市をアピールする観光に、新市建設計画は、今年十月で二十万人の観光客数を目標に掲げる。

面での新たな取り組みが始まった。だが、目標二十万人の観光客数を確保するに、観光振興への取り組みが鍵となる。観光振興への取り組みが鍵となる。観光振興への取り組みが鍵となる。

協力を強化すること、市産業観光部は、来月に「大切」と力説する。その上、民間との協働の場を設け、例えば、田沢湖や乳頭温泉郷と角館の武家屋敷ながら、観光と他産業の連動の中間に位置する抱返り溪、隣接地域との横軸連携などの潜在力を活用し、そこを軸とした観光を本格化させたい考えだ。

観光地としての知名度や施策の蓄積に、新たな動きを包含しながら、新市の観光をどうのまにデザインするかの、他地域への波及効果も期待される中、仙北市の取り組みに注目が集まっている。

広域観光

昨年九月の合併時に、行政に先駆けて新市の観光マ

第2部 地域の視点

再編その後

あきた市成の大合併

「これほど若美の候補が当選するとは」。三十四人が出馬し十六日に投票された合併後の男鹿市議会議員選挙(定数二四)は、多くの市民を驚かせた。当選者は旧市町別で男鹿十七人、若美七人と、人口の割に若美の候補が大健闘。市民の一人は「人口比で地区の代表がおおむね決まるよ

従来の戦い通用せず

広域化で地域に危機感

うな従来の地域選挙は通用しなくなっている」とを示す結果だと話した。男鹿約二万四千七百八人、若美約六千八百人という権市の新定議員十八人のうち、十五年市議選の票を上回ったのはわずか四人。三が多数を占めた。その批

選挙事情

れも候補者が乱立する中で、選挙戦が激化する中、旧市町、難し、従来の戦いが、旧町村からも満ちなく」と話した。



合併後初となる男鹿市議選の開票風景。旧若美町の候補の躍進が目立った。男鹿市役所大会議室

百票以上減らした議員も二人おり、臨本地区は暫定市議三人のうち二人が落選した。前回は選挙ラインは、旧男鹿市議選七百十二票に対し、旧若美町議選が二百五十票。基礎票では圧倒的に不利な状況からのスタートとなった若美の議員らは「男鹿とは気が違っていた。奇跡を起そうと必死だった」。高齢化、マンネリ化は、大仙、美郷、由利本荘、近隣市町村との合併に伴

い「空白区」は出ていない。今年一月の潟上市議選(定数二二)で旧飯田川町の当選者は一人、三月の北秋田市議選(定数二六)では旧阿仁町の当選者が二人で、地道に議員活動し、比較の有権者が少ない準備を進めていた候補は奮然と票を伸ばした。地域を越えて、主権意識の自身が問が誕生している。男鹿市議選は、そうした地域の立候補者が新市に深く食い込んで、選挙戦が行われたのだ珍しいケースだった。

いえる。昨年九月の大仙市議選に当選した旧神岡町の当選者が出たのは、地域の議員は「初めての広域選挙議員を失ってはならない、で、全然先が見通せなかつた」という危機感の表れだろ

再編その後

のきた「平成の大合併」

地域審議会 合併と絡める事項について市長が特別法に基づき、旧市町村の区域を再編する。合併後、18年4月1日、当該区域に関する事項について市長の諮問に応じて審議するほか、審議会が必要

が利かないのも事実だ。旧河辺町議会の藤原寛元議長は合併後、地域審議会の出発点。今月中旬に開かれた本年

これまで通り地域の声の両地域審議会から上がった。合併に伴う、この共通の課題を解決するため、合併各市はさまざまな対策を講じている。合併特別法に基づき、地域審議会を設置し、昨年1月、旧河辺、雄和両町を吸収合併した秋田市も、議員の激減に対する不安解消のため両地域に地域審議会を設置した。しかし一年を経た、合併協議を進めた当事者からも、審議会の在り方を問い直す声が出始めている。

第2部 地域の視点 ③

「委員自身、何を発言すべきかわからない」という声感が感じられる。旧雄和町議会の議長として合併協議を手とめた土藤四郎市議は、審議会の問題をこう指摘する。

地域審議会

地域の審議を促すことが審議会の重要な役割。審議会の意見が市長に尊重されるべきだと定めていた。協議権がないため、議決権がないため、議会の存在意義を示す必要がある。今後、都市内地域分権を進められる中、自治意識を高揚させる上でも、地域の多様性を尊重する観点から、合併特別法に基づき、地域審議会が設置された

形骸化の危機感強

自治意識の高揚も必要

河辺、雄和の両地域審議会では、世風側と委員がやりとりする場面が目立った。秋田大学池田好道副学長は、「地域審議会の設置は、地域の多様性を尊重する目



〈第2部・完〉